

令和7年度 学力・体力向上プラン

学校名 中央区立阪本小学校

1 課題

【4月】令和6年度学力向上プランの検証結果、学校評価の結果等によって明らかになった課題 【10月】令和7年度学習力サポートテスト、体力テストの結果等によって明らかになった課題	
児童・生徒の学力の課題	
国語	【4月】 ・第4学年は、どの領域も正答率が目標値を上回っていた。しかし、「ローマ字」設問の正答率が60%と全国正答率の67%を下回っていた。 ・第5学年は、どの領域・内容も正答率が目標値を大きく上回っていた。ただし、漢字を書く設問の正答率が70%を下回っていた（69.1%）。 ・第6学年は、どの領域・内容も正答率が目標値を上回っていた。ただし、文章を書く問題の無解答が25%を超えている。一部の児童に対して、書くことへの抵抗感を減らす必要がある。 【10月】
算数・数学	【4月】 ・第4学年は、どの領域・内容も正答率が目標値・区平均正答率を上回っていた。しかし、「データの活用表～表とぼうグラフ～」の数量の読み取りに関する設問の正答率（73%）が目標値（75%）を、下回っていた。 ・第5学年は、どの領域・内容も正答率が目標値より大きく上回っていた。ただし「データの活用～折れ線グラフと表～」の正答率が70%未満（69.4%）だった。 ・第6学年は、どの領域・内容も正答率が目標値より上回っていた。ただし、「分数の計算」においては、正答率が74.1%であり、目標値70.0との差が最も小さかったため、課題があると考えられる。 【10月】
社会	【4月】 ・第4学年はどの領域・内容も目標値を上回っていた。しかし、一部で地図記号の暗記や資料の読み取り問題に課題がある。 ・第5学年は、どの領域・内容も目標値を概ね上回っていた。ただし「自然災害からくらしを守る活動」のみ目標値を下回っていた。 ・第6学年は、どの領域・内容も目標値を上回っていた。ただし、「日本の工業生産」で全国平均並であり、課題があると考えられる。 【10月】

理 科	【４月】 ・第４学年はどの領域も目標値を上回っている。しかし、設問ごとにみると「植物の育ち方」（４５％）「電気の通り道」（４３％）「磁石の性質」（２６％）の正答率が低く課題が見られる ・第５学年は、どの領域・内容も正答率が目標値を大きく上回っていた。 ・第６年生は、ほとんどの領域・内容の正答率が目標値を上回っていたが、「顕微鏡の使い方」は、正答率が４６．３％であり、大きな課題がある。 【１０月】
英 語	【４月】 ・多くの領域・内容の正答率が目標値を上回っていたが、「アルファベットの書き方」の正答率は７２．８％、「英作文」の正答率は６６．７％と全国平均を下回っており、大きな課題がある。 【１０月】
体力向上	【４月】 ・令和６年度「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果では長座体前屈は半分の学年で、握力是一部の学年で全国平均を下回っている。 ・第４、５、６学年のシャトルラン測定を合同でやったことにより、中位層の記録を大きくのばすことができた。しかし、下位層の記録を伸ばしていく必要がある。 【１０月】

２ 年度末までの目標及び指標、具体的な取組

	年度末までの目標及び指標	具体的な取組
国 語	【４月】 ・立場や状況に応じた適切な言葉や言い方で、伝えたいことを伝えたり、聞きたいことをインタビューしたりすることができる。 ・漢字の確実な定着を行う。第４，５，６学年の学習力サポートテストで全国平均を上回る。さらに、次年度も上回ることができるように指導する。 【１０月】	新しい言葉や漢字の学習では、ただ覚えるのではなく、意味を自分で調べてから練習し、使い方についても繰り返し書いて覚えるようにする。
算数・数学	【４月】 ・複数の方法で答えを導き、図や式を用いて説明できるようにする。 ・算数用語の定期的な振り返りを行い、定着させる。	低学年のうちから定規を使った直線の引き方、長さの測り方が身につくよう、ノートの手書き方や工作などで意識して指導を行う。

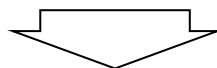
	・第4，5，6学年の学習力サポートテストの全ての単元で全国平均を上回る。 【10月】	
社 会	【4月】 ・調べたり、学んだりした内容を自分の身の回りの生活と結びつけて考えることができるようにする。 ・第4，5，6学年の学習力サポートテストの全ての単元で全国平均を上回る。 【10月】	インターネットで調べるだけでなく、実際に自分の目で見て調べ、図書資料等をもとに考え発見し、課題解決するような学習を多く取り入れる。
理 科	【4月】 ・身の回りの自然や現象に触れ体験する活動に積極的に取り組めるようにする。 ・第4，5，6学年の学習力サポートテストの全ての単元で全国平均を上回る。 【10月】	坂本町公園での植物や生き物の観察は、自分の木や場所を決めて定点観察するなどの機会を増やし、方法も工夫して行っていく。
英 語	【4月】 ・様々な活動を通して英語のアルファベットや単語を、体験的に学んでいけるようにする。 ・第4，5，6学年の学習力サポートテストの全ての単元で全国平均を上回る。 【10月】	フォニックスを用い、発音の規則や語順等を体験的に学び、単語の語彙を豊かにする。
体力向上	【4月】 ・令和7年度「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」では長座体前屈の記録を全国平均まで押し上げる。 ・シャトルラン測定で下位層の記録を引き上げる。 【10月】	・柔軟体操などを継続的に行う。 ・一定の負荷の中で運動を継続する経験が不十分であるため、体育の授業等で多くの機会を取り入れる。

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
取組	・区学習力サポートテスト等の結果を踏まえ、児童の実態を全教職員で把握する。学力向上プランのPDCAサイクルを実施し、低学年から指導の工夫・改善を図る。 ・小学校授業スタンダードを活用した指導力の向上を図り、区費講師等の活用による算数習熟度別指導や少人数指導、個別指導・自主学习支援テキスト、東京ベーシック・ドリル等の活用を通して個に応じた指導の工

	夫を図る。 ・特別支援教育の趣旨を踏まえて一人一人の学習状況に応じた指導を行うために、協力的な指導、教材の開発、評価の改善、学習環境の充実を図る。 ・家庭学習キャンペーン（年３回）の実施を通して、家庭と連携した学習習慣の定着を図る。 ・問題解決的な学習において、意図的に小集団での活動を取り入れた学習を展開する。 ・個人の意見を考えまとめる時間を十分に確保し、話し合いなどの協働的な学習が効果的に行えるようにする。
--	---

探究的な学びの充実	
取組	・「国際理解教育（邦楽・オリンピック・パラリンピック教育等）」「キャリア教育（金融教育・法教育）」「環境教育」を中心として、問題解決的な学習を通して、探究力の育成を図る。さらに、人やものとのかかわりを重視し、自己決定力を育てる。 ・学年の発達段階に応じて培う力を明確にし、他者と協働して問題を解決する学習を展開する。また、言語により分析し、まとめたり表現したりする横断的・探究的な学習を展開して生きる力の育成を図る。 ・外部講師、外部機関との連携を深め、地域の素材や地域の学習環境を積極的に取り入れる。 ・校内研究のテーマであるデジタルシチズンシップ教育を通して情報モラルの理解を深めるとともに、情報活用能力やリテラシー、プログラミング的思考力を高め、情報社会に対応する教育活動を行う。 ・身に付けた情報モラル、プログラミング的思考などを生かし、各教科等と関連させた指導を行う。

読解力の育成	
取組	・前年度の学習力サポートテスト等の結果を踏まえ、読解力の育成のために各教科の授業における文章読解の活動を積極的に取り入れる。 ・週２～３回程度、朝の１５分間読書を実施するとともに、毎週１回のボランティアによる読み聞かせ、公共図書館との連携、年１回のお話会を行い、読書習慣の機会を増やす。



3 取組結果の検証

	令和７年度の実践の成果	令和７年度の実践の課題と解決策
国語		
算数・数学		

社 会		
理 科		
英 語		
体力向上		

個別最適な学びと協働的な学びの充実	
成果と課題	

探究的な学びの充実	
成果と課題	

読解力の育成	
成果と課題	